

あぶた福祉会

第26回

クリスマス会

今年はホワイトクリスマスになりました

昨年の12月18日に洞爺湖万世閣にて清水友愛の里クリスマス会、23日には洞爺サンパレスにて地域生活者のクリスマス会が、それぞれ実施されました。12月は雪が少なく、雪が降ってもすぐ融けてしまう状況でしたが、クリスマス会が近づくと大雪が降り、両日ともに真っ白な雪景色になりました。

陽が落ちた暗い中、バスで会場まで移動しましたが、窓の外は真っ白な雪に、まずは心が躍



楽しそうにピラメキーンダンスを披露した友愛の里クリスマス会

り、会場のレストランもクリスマスツリーなどで綺麗に装飾され、会が始る前から気分を盛り上げてくれました。

更に、目の前に並んでいる料理はどれも美味しそうで、今年はハーフバイキングもあり、カウンターの近くからも美味しいような匂いが漂っていました。次々に運ばれてくる料理は、種類も量もとても多く、思う存分食べ、皆、その美味しさに舌鼓を打ちました。

もう一つの楽しみは余興です。友愛の里のクリスマス会の余興は、ここ数年、職員による余興を中心としていましたが、今年は利用者による余興を設け、4名の女性利用者がピラメキーンダンスを披露しました。地域生活者のクリスマス会は、毎年利用者による余興を設けており、毎年大変盛り上がるのですが、今年は衣装・化粧もバッチリ決めて、モーニング娘の歌を歌いながら踊りました。プロ並みの踊りで、会場全体が非常に盛り上がり、最後にはトヨタ太鼓



モーニング娘の扮装で盛り上げた地域生活者のクリスマス会

の演奏に大勢の利用者が前に出て踊り、楽しい夜を過ごすことができました。またテーブルごとにカットしたペットボトルに入っているピンポン玉を移すゲームは、全員が参加することができ、とても好評でした。

最後には、両クリスマス会ともに、サンタクロースやトナカイに扮した職員からプレゼント

が配られました。毎年、利用者がそれぞれ品物を購入し、交換をする方法を取っていたのですが、今年は家族の会よりプレゼント代を出してもらおう事ができ、一人ひとりが欲しい物を担当職員が購入したため、プレゼントの包みを開けたと同時に皆さんとても喜んでいました。

帰りのバスの中でも、プレゼントをお互いに見せ合うなど、興奮が冷めやらないようで、今年のクリスマス会も楽しく過ごす事ができました。

瓢箪に感謝を認めて

昨年12月に、町内在住の柳沼勝司様より、瓢箪の飾りをたくさん頂きました。瓢箪ひとつひとつに、「おかげさま」「ありがとう」といった暖かな言葉が記されており、色々な人にお世話になりながら、長い人生を生きてきたことに感謝しながら、この言葉を認めたそうです。柳沼さんは30年ほど瓢箪作り



贈呈された瓢箪



うれしそうに瓢箪を受け取る利用者

をしており、去年、残った種を蒔いたところ、暑かった夏が瓢箪には良かったようで、2本の木から100個以上の瓢箪がなつたため、このような飾りを作りました。瓢箪に穴を開け、30分ほど煮て、中の種を取るのですが、小さな穴からはなかなか種が出て来ず、とても時間がかかるそうです。柳沼さんは、時間がたつぷりある人間にしか作れないほど手間ひまが掛かると笑っておっしゃっていました。

この瓢箪の飾りは、クリスマススイブの日の夕食時に、利用者にとつとつ手渡しをしました。瓢箪など知らない利用者が多く、珍しい物に驚きの表情を見せる方もいました。

夕食後は、瓢箪を電気の紐に結ぶ人、ベットの棚や食器棚に飾る人と様々でしたが、珍しいクリスマスプレゼントになったようでした。

ありがとうございました。